



おだしか健康レポート

ODASHIKA HEALTH REPORT

— 3 —

むし歯(歯)が痛む

太古の昔からいわゆる歯痛に苛まれることは多くの古典でも確認できます。さて、むし歯は痛むものなのでしょうか。通常むし歯は進行した状況に応じて1〜4度に分類されます。1度(C1)はエナメル質(各図①)に局限し通常痛みを感じることなく、できた場所によっては適切な治療により治る可能性があります。この時点で適切な対応ができず、そのまま進行し象牙質(各図②)に進むと2度(C2)と分類され、むし歯に罹った部分を取り除かなければ治ることはなく、痛みを感じる場合があります。象牙質は俗に神経と呼ばれる歯髄(各図③)から、その末端が細かい管(象牙細管)に伸びて

います。その管を介して歯髄が痛みます。痛みの感じ方は個人差が大きいです。食物や飲み物などにより一瞬といえるごく短時間の痛みになります。この時点でむし歯を治すことができれば大きな問題に繋がることはありません。

さらにむし歯が歯髄に影響を及ぼすところまで進むと、3度(C3)と分類され歯髄が炎症を起します。この段階での歯髄の炎症は、冷たいものなどに接触することによりズキズキと表現される脈打つような鋭い痛みになります。その痛みが長くて数分続きますが、その後何もなかったように痛みが引きます。歯髄の炎症やダメージの程度により痛み

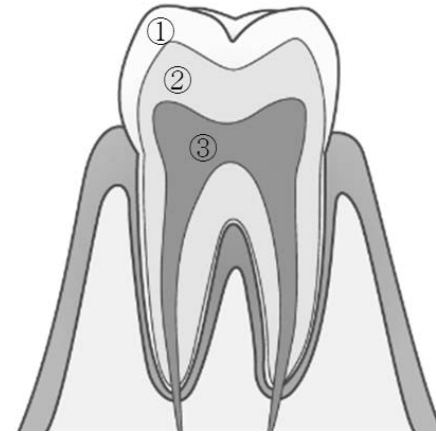
みの時間が長くなり、温かいものでも痛むようになります。ここまでご理解いただけると思いますが、歯痛とは歯髄の痛

みになります。正確に言えば歯が痛むのではなく、歯髄が痛むのです。

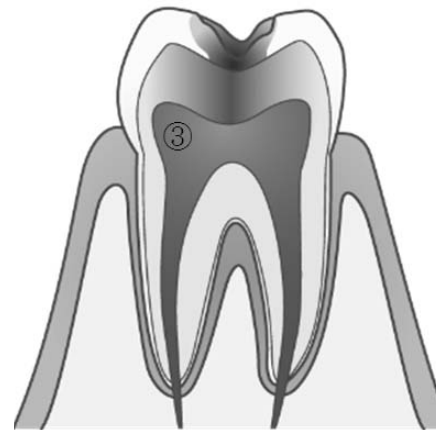
むし歯のはなし②



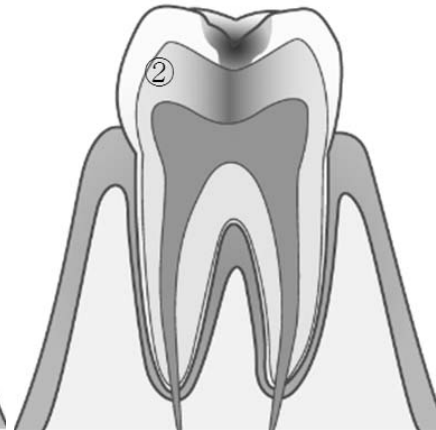
あんざい・よしみつ
1967年生まれ、
小田原市出身。日本歯科大学歯学部卒業。



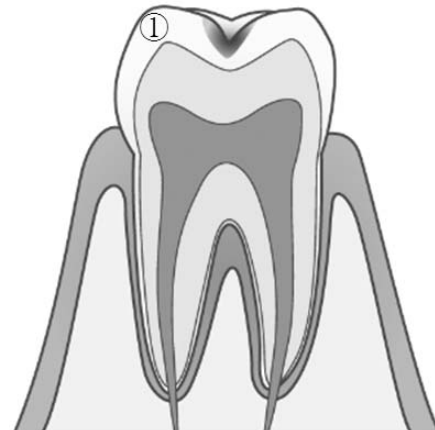
(図) 正常な歯の構造



(図) C3の状態



(図) C2の状態



(図) C1の状態

歯髄の炎症に伴う歯痛の治療とは

歯髄の炎症を伴う歯痛の場合、現時点で歯髄の炎症だけを治すことはできません。俗に「神経を抜く」といって処置をすることになります。神経と言われますが、歯髄には脳から繋がる神経の末端のみならず、心臓から繋がる血管の末端が通っており、硬い歯の組織

に囲まれた体の中になります。歯髄があるから歯は生きています。歯髄が抜くと、神経を抜く」とは、歯髄を殺し取り除く事になります。歯髄のなくなった歯は形こそあれ死んだ歯、失活歯になります。

失活(死んだ)歯の問題点

歯を失活させると歯痛から解放されます。また歯冠を修復することで、生きている歯と変わる事なく使用することが出来ます。良い

このように見えますが、歯を生きたまま治せなかったらば敗残処理になります。手術と同等のレベルで治療を行っても、将来にわ

むし歯で歯を失わないために

この話を整理解する。むし歯で歯をなくさないためには、歯痛が起きてからの受診では将来に不安要素

が残り、一歩手遅れになるといことになり。そのためには、ほんのわずかな症状や何も症状がない状態で

の受診、治療が大切になります。いろいろな健、検診を利用することもできますし、かかりつけ歯科医を持つことで早期での対応が可能になります。

ポイント

- ・歯痛は、歯髄の痛み
- ・神経(歯髄)を抜くとは、歯を殺すこと
- ・失活した歯はトラブルの可能性が残る

小田原歯科医師会事務局

TEL. 0465(49) 1311
FAX. 0465(49) 1551

〒250-0875 小田原市南鴨宮2-27-19
一般社団法人小田原歯科医師会は、小田原市、箱根町、真鶴町、湯河原町の歯科医師会会員で構成されています。このホームページでは、一般社団法人小田原歯科医師会が主催、後援または協力している事業とそれに関する情報やお知らせを紹介しています。

<https://odawara-dent.or.jp/>

小田原歯科医師会 検索

歯と口腔に関わるご相談
往診・歯科訪問診療の
ご相談は

一般社団法人小田原歯科医師会
地域支援歯科連携室
まで

TEL/FAX 0465(49) 1319
月～金
9:00～12:00 13:00～17:00